

グスク土器

■ 出土地：喜友名下原第二遺跡

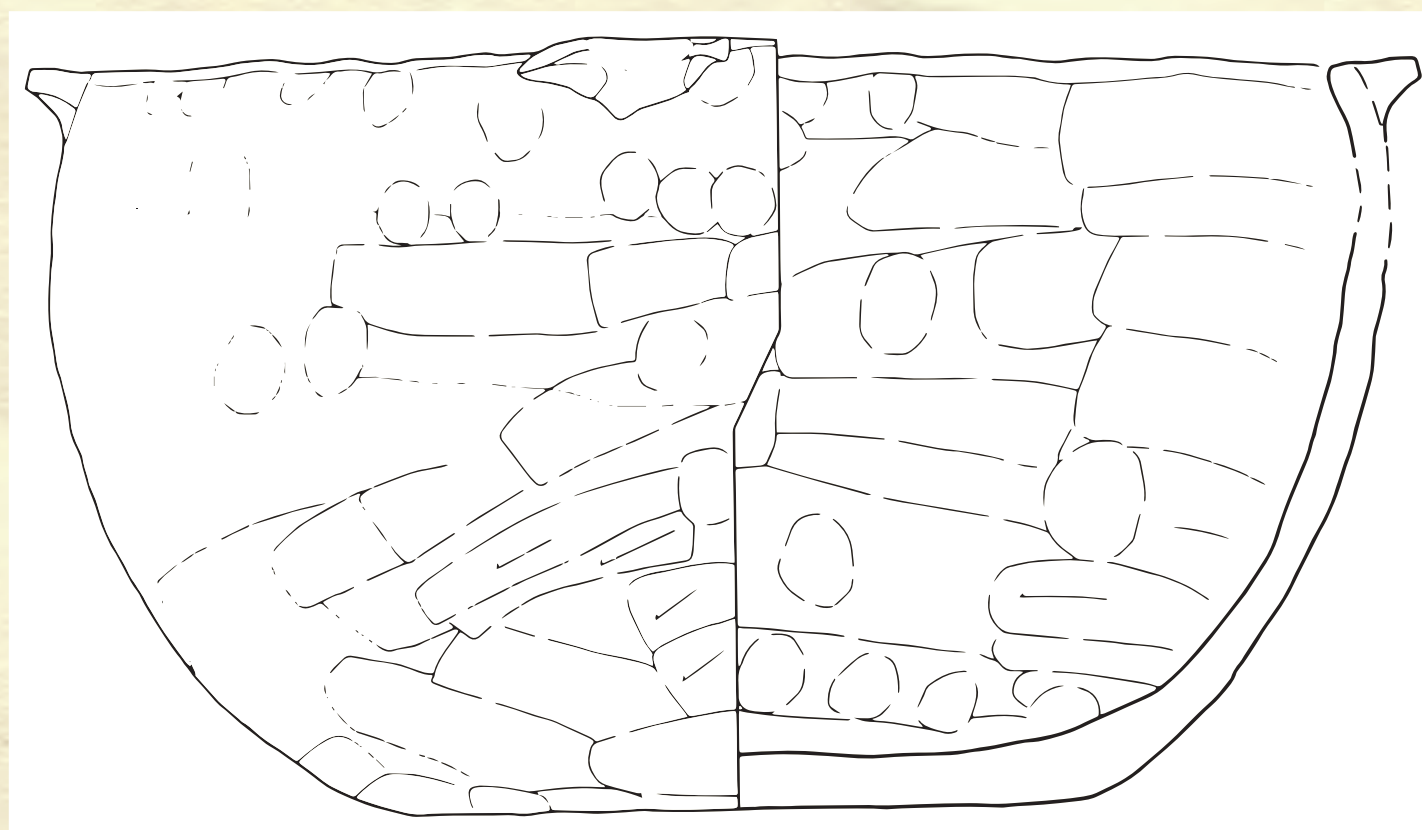
このグスク土器は、喜友名下原第二遺跡の試掘・確認調査の際に出土したものです。

調査では、ピット内にグスク土器のほぼ一個体分の破片が15cm前後の角閃石安山岩礫とともに埋められた遺構が確認されました。

この遺構より出土したグスク土器は、器形は口縁が内傾する鍋形で、器形のほぼ全体を窺えるものです。口唇部はやや舌状に成形され、口縁の外端部には横耳を貼り付けています。口縁部は半分程度を欠損していますが、残存部位からは横耳は四方に付されたと推定されます。また、共に出土した礫は、明確な使用面は認められなかったため自然礫と判断されています。

この遺構のように、ピット内に土器と礫を埋めるような例は、県内の遺跡では類例がほとんどありません。何らかの意図を持って、埋められたものと考えられます。

〈具志堅 清大〉



グスク土器の実測図